

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農林水産学研究科1年

氏名: 柴田雪花

授業科目名	国際バイテク・リーダー育成
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修先のタイでは、食料・植物生産に関する技術や、文化・遺産について学びました。また、学生との交流では英語を使い意思疎通を図る事ができました。学術的な知識として、大学の講義や企業訪問を通して、タイでの食料生産や流通、付加価値のつくり方について実際に使われている技術を知る事ができました。自身の専攻である植物生産の観点から、GM作物が法律で禁止されながらも新品種を作る技術を知りました。また、コミュニケーションについて、互いの母国語が通じない環境で、相手を受け入れる姿勢と自分を理解してもらふ姿勢が大切であると実感することができました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>事前学習で食文化や歴史について知識は得ていたものの、現地で気候や雰囲気を感じることによってなぜそのような食文化が確立したのか、どのように歴史が現代に影響を与えたのかなど、異文化理解を深める事ができました。また、社会について、日本では特に農業では就労人口が減少していることから省力化を重きに置いた働き方が考えられているが、タイでは農業は重要な働き口であることが共通理解として存在しており、雇用拡大のための利益追求も行われている点で社会の違いも学ぶ事ができました。農業大国では、技術だけでなく根本的に就労人口も重要であることを実感しました。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>コミュニケーションに関して、完ぺきな知識や相手との共通認識が必要であると考えていましたが、初めて出会う文化や学問、人々と完全な意思疎通ができるわけではなく、大切なのは互いに違いを受け入れ理解しあう姿勢であると実感しました。自身は英語を流暢に話すことができず、それでは意思疎通が図れないと考えていましたが、まずは話しかけることを意識し、現地の学生や企業の方、大学の先生へ自分の興味を伝えていくと、つたない英語でも理解してもらえ、相手側もこちらが理解できるよう接して下さった経験から、まずできる範囲で行動していくこと、その興味を基に成長していくことが大切であると知りました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>自分の専攻は植物育種学であり、地域社会に直接関与するものではないという認識でしたが、最終的には生産・消費に関与するものではあるため、自分の開発した品種が使われる地域の文化や人間社会について興味を持ち、どのように課題解決に貢献できるのかやその有用性を世間に知ってもらう方法を考えることも重要であると考えました。今後は地域社会と自分の研究が密に関わられるよう、食文化や経済などの専門外分野を含め食料の生産・流通過程から消費される状況まで幅広く勉強しようと思いました。現在は病害抵抗性をもつイネ品種の開発をしていますが、実用性についても考えなければならないと感じました。</p>	